

小熊英二著

『単一民族神話の起源』

富山 一郎

コメの自由化がマスコミを賑わしたとき、自由化に反対する多くの農業経済学者、知識人が、「太古の昔に稲を選択した日本人」、「独自の稲作文化が日本人を形成した」といった論を、恥ずかしげもなく展開したことは記憶に新しい。日本社会は太古に起源を持つ日本人により構成されてきたと考える歴史観は、肯定的にしる否定的にしる、歴史学も含めて日本あるいは日本人を研究対象とするアカデミズムに根強く存在し、また継承されている。大日本帝国の時代における日本民族論は、おおむね混合民族論として形成されたと主張する本書は、今日流布しているこうした常識（著者の表現を借りれば、神話）に対して、きわめて明快な論点を提起している。最初に、本書の構成を示しておこう。

序章

第一部 「開国の思想」

第1章 日本民族論の発生—モース・シーボルト・小野梓

ほか